

まちの話題

企業の森林づくり 協定を締結

12月25日、神崎市とトヨタ紡織九州(株)が「企業の森林(もり)づくりに関する協定」を締結し、神崎市役所で調印式が行われました。



森林づくりに意欲がある企業と森林の整備を希望する自治体が協定を結び、企業は市有林の

保全・管理活動を行ない、森林の命名権を取得するもので、佐賀県が推進する「元気な企業の森林づくり支援事業」の県内第3号となりました。

協定期間の5年間でトヨタ紡織九州(株)の社員の皆さんに、ボランティアで脊振町服巻の市有林3・71ヘクタールの下草刈りや枝打ち、ヒノキ約8,000本を植林していただく予定になっています。

市有林は「トヨタ紡織グループ「環境の森」脊振」と命名され、今回の森林再生で、5年間でCO₂が119t削減できると期待されています。

プロの技術を身近に学ぶ!

12月14日、神崎中央公園グラウンドでプロ野球少年野球教室(神崎市体育協会主催)が、野中信吾選手(横浜ベイスターズ、神崎町出身)を指導者に招き、行われました。

野球教室には、市内の中学生73人の参加があり、走塁や守備の基本などを学びました。参加した子どもたちは、野中選手の技術を目の前に、真剣な眼差しで取り組んでいました。



消防団出初式

1月4日、神崎中央公園グラウンドで神崎市消防団出初式が行われました。

式典には745人が参加。通常点検をはじめ統制がとれた行列行進からは団員の意気込みが感じられました。

また、多年に渡る消防団活動にご尽力いただいた団員や火災時の初期消火などにご協力いただいた市民の方への感謝状などが贈呈されました。

式典終了後には、ふんどしとさらし姿の団員たちが凍りつく



家族経営協定に調印

寒さの中、見事に馬れん回しを披露され、会場からは大きな拍手と歓声があがっていました。消防団団員の方からは、「今年も市民の皆さまの生命財産を守り、安心して暮らせるよう防火防災活動を行っていきます」と力強い言葉が聞かれました。



12月16日、家族経営協定の調印式が神崎市役所で行われました。

この日は、シクラメンと水稻で農業経営をされている山崎久男さん(神崎町)が調印され、「今後とも家族で力を合わせて経営していきたい」と抱負を述べられました。

家族協定は、家族の一人ひとりがゆとりある農業を営むため、報酬や休暇などについて取り決める行うものです。

市全体での協定数は、118世帯となりました。

全国大会で銀賞受賞 〜西部小マーチングバンド〜

千代田西部小学校マーチングバンド部は、12月20日、さいたまスーパーアリーナで開催された第36回マーチング・パトントワリング全国大会に出場し、「ようこそアニーの世界へ」の曲を披露し、見事銀賞に輝きました。

同部は、先に熊本市で行われた九州大会で見事金賞を受賞し、全国大会の出場の推薦を受けました。29人の部員が一丸となって練習に励み、大会前は日曜日も返上してがんばりました。



地区の交流深まる

12月21日、神埼町志波屋地区で、防災訓練と門松作りなどが行われ、地区住民約70人が参加しました。

防災訓練では、昨年度作成したハザードマップを生かそうと消防団員による一人暮らしの高齢者の避難訓練や炊き出し訓練、門松作りでは、老人クラブの丁寧な指導により、子どもたちは縄をない、苦心しながら門松をつくりました。子どもたちからは、立派な門松ができて上がり、歓声が上がっていました。

消防団による炊き出しのご飯で婦人会が「おにぎり」を作り、

山火事に備え、合同で訓練

11月30日、空気が乾燥し、火災が発生しやすい冬場に備え、神埼地区消防本部、消防団（神埼市、吉野ヶ里町、佐賀市三瀬村）による「脊振山系合同訓練」が吉野ヶ里町のトムソーヤの森周辺で行われました。

訓練には署員、団員約120人、消防車両21台が出動し、給水から放水まで本番さながらの機敏な動きで消火活動を行いました。



子どもたちがついた餅は「きなこ餅」になりました。「おにぎり」と「きなこ餅」は、参加者にふるまわれ、地区住民の交流となりました。

バングラデシュで奉仕活動 〜アイキヤンプ〜

インドやバングラデシュで白内障手術に取り組んでいる医療ボランティア「POSA」（倉富彰秀理事長）のアイキヤンプ事業が、12月18日から26日まで行われました。

この活動は、平成7年から毎年行われており、メンバーは、眼科医倉富彰秀さん（神埼町）を中心に県内外の眼科医、看護師、学生ボランティアなどで構成されています。患者さんにとって最善の治療と最高の医療レベルで治療することをポリシーとして活動されており、POSAの会費、寄付のほか、各自の自己負担で行われています。



現地の人は栄養不足で白内障になり、治療を受けられないで視力を失う人も多く、貧しい人にとっては、死にも直面する深刻な問題となっています。

今後は、白内障手術、現地の眼科医に最新の手術の教示、小学校でビタミンAの投与を行い、角膜混濁による失明を予防する活動に加え、神埼ライオンズクラブとPOSA有志の医師によりクリニックを建設中で、その隣には、アイケアセンターを設立しようとプロジェクトが進められています。



未使用タオル（手術時に必要）や使い古しの眼鏡（術後の患者に必要）がありましたら、くらとみ眼科（☎52-8841）まで寄贈をお願いします。

永年の功績をたたえ

高齡者叙勲

○瑞宝双光章



内田芳之介さん(神埼町)
元神埼中学校校長

文部科学大臣表彰

○社会教育功労者



梅野千穂子さん(神埼町)
前県地域婦人連絡協議会副会長

厚生労働大臣表彰

○障害者自立更生等功労者
【更生援護】



緒方建太郎さん(千代田町)
県身体障害者団体連合会監事

人権擁護委員

○新任



1月1日付けで實松常夫さん(神埼町)が法務大臣から人権擁護委員に委嘱されました。

○退任

前任の橋口泰俊さん(神埼町)は、9年間の長きにわたり人権擁護委員として活躍されました。退任にあたり法務大臣より感謝状が贈られました。長い間お疲れ様でした。



《市職員の退職》 1月1日付
城島 勝敏

ふるさと納税 ～全国から寄付とメッセージ～

平成20年6月1日から平成20年12月31日までにふるさと納税として2,202,000円をいただきました。

この寄付金については、神崎市発展のための大切な財源として「自然と歴史と人が輝く未来都市」“神崎市”のまちづくりに使わせていただきます。

内容	金額
かんざきの歴史文化の保全、観光・物産の振興	523,500円
かんざきの自然環境の保全	503,500円
かんざきの福祉の充実	100,000円
かんざきの未来を担う人材の育成	175,000円
市長おまかせ	900,000円

～日本全国からふるさと“かんざき”へのメッセージが届いています～

私は和歌山生まれの和歌山育ちなのですが、昭和54年当時、西九州大学に進学して、初めて和歌山を離れました。そこで学問以外でかなり勉強になりました。近いうちに是非、私の第2の故郷の神崎市へ行きたいです。(和歌山県在住 佐々本誠也さん)

出張の帰り道で途中下車し、古代の文化に触れることができました。10年程前なので今は大分整備されたものと思います。少しでもお役立てください。(埼玉県在住 匿名)

神埼高校の卒業生です。この季節「夏がくれば思い出す」の合唱が講堂から聞こえてきたものです。良き人材が育ってほしいと思います。(愛知県在住 匿名)

◎問い合わせ先 神崎市役所 政策推進課 ☎37-0102